

2016年度 日能研 6年生の夏期講習

★「6年生の夏」

- 6年生の夏は、小学生最後の夏であり、中学受験生になる夏でもあります。夏期講習からは、志望校を真正面にすえた学びがいよいよ始まります。
- 入試問題で求められるチカラと自分の今のチカラを比べること。自分自身の課題をはっきりと言葉にすること。合格するために学習計画を具体的にして、実行すること。一つひとつを自分が言葉にし、“あこがれ”を「現実」にする。そのために夏の学びを始めていくのです。
- 6年前期本科教室（ステージⅣ）までに学んだ自分の学び方を見つめ直ししながら、かつてない「量」「質」へと挑んでいきます。この夏期講習を通じて自分自身が「中学受験生になった」ことを実感して、合格をつくる6年後期本科教室（ステージⅤ）へと突入する準備が始まっていきます。

★各科目について

【国語】

これまでに獲得してきた思考技法を使って、文章の構造を論理的・客観的に読み取り、自分の思考プロセスを明確にしながら答えをつくる力を身につけていきます。また、新しく出会う文章や課題に対して、これまでに獲得してきた視点や考え方をどのように使うのかを判断する力も高めていきます。授業中は、演習形式で取り組む場面が多くあります。文章の「細部」と「全体」双方から、文章の中心部分を正しくとらえ、課題に取り組んでいきます。そして課題に取り組んだ後、課題を解決するための「手がかり」や「根拠」を確認し、自分の考え方の過程をふり返ります。

「6標準」・「6応用」・「6難問」のそれぞれのテキストの前半部分には、「共通問題」があります。「共通問題」は、各回「学習のポイント」－「例題」（「学習のポイント」を確認する問題）という構成です。「共通問題」の最後には、家庭学習用の「記述演習」「語句演習」「漢字演習」があります。

■6年標準コース

「共通問題」に書かれている「学習のポイント」を意識しながら、問題に取り組めます。問題に取り組むにあたって、適切な思考技法を選び、自分で使えるようになることがねらいです。

■6年応用コース

演習形式で問題に取り組む中で、文章の細部を正確に読み取り、全体読解につなげる力を磨いていきます。さらに、さまざまなパターンの文章の読解に取り組めます。問題に取り組むにあたって、適切な思考技法を選び、自分で使えるようになるとともに、学んだ思考技法を複合的な問題に使うことにチャレンジすることがねらいです。

■6年難問コース

演習形式で問題に取り組む中で、文章の細部を正確に読み取り、全体読解につなげる力を高めるとともに、難解な文章でも読みこなし、長い記述でも難なく書ける力を磨いていきます。複合的な問題に取り組むにあたって、適切な思考技法を試行錯誤しながら選び、自分で使えるようになることがねらいです。

■ 共通問題

入試までに持っておきたい考え方が「学習のポイント」で、それを「例題」で確かめるという形式です。「典型化されている課題の思考技法の確認」「複合的な課題の解決のもとになる思考技法の使い方の確認」「自分の弱点になっている思考技法の確認」などに使います。それぞれのコースのテキストを学ぶ前の準備や、学んだ後のふり返しとして利用することができます。

【算数】

子ども達がこれまでに学んだ事柄をふり返し、まとめ直したり、新しい見方に気づいたり受け止めたりすることによって、自分自身で問題を解決する力を身につけることが目標となります。

着眼点を明確にして図形をとらえること、数量を抽象化して構造を単純化すること、数と数の関係から構造をとらえること、状況に合わせて着眼点を変えること、情報を視覚化して構造をつかむこと等を中心に学んでいきます。

「6標準」・「6応用」・「6難問」のそれぞれのテキストの後半部分には、「共通問題」があります。「共通問題」の最後には、家庭学習用の「計算と一行題」があります。

家での学びでは、授業中に問題を扱ったそれぞれの場面で、初めに自分がどう取り組んだか、問題の構造を明確にしていく場面で大切にされていたのはどのようなことか、それを受けて自分の中にどのような気づきがあったのか等をふり返ります。

■ 6年標準コース

入試問題を考えるための基礎となる部分に立ち返ることをねらいとしています。テキストは、例題—練習問題のくり返しです。基礎的内容の理解を促す問題を例題に厳選し、例題で本質をとらえていないと取り組めない問題（単なる数値換えではない問題）を練習問題として配置しています。

■ 6年応用コース

入試で差がつきやすい大型問題に取り組める力を養うこと、複数の情報・条件を整理して考える力を養うこと、問題を多角的に見る視点や発想力を養うこと等をねらいとしています。テキストは、1ページ目の例題部分と、それ以降の問題部分で構成しています。

■ 6年難問コース

他分野との連関や異なる思考技法どうしの連関をつけたり、未知に対する解決の糸口を発想する視点を養ったり等、単に問題を処理するだけでなく、本質を考える機会を多く作ることをねらいとしています。解法の多義性のある良問や、発想力が試される難問を厳選しています。

■ 共通問題

入試までに必要となる重要な情報に触れることができる問題や内容を、回数分けをしないで網羅的に掲載しています。使う思考技法が明確な問題に取り組むことで、思考技法と素材のつながりを確認していくことができます。夏期講習終了後も、課題や弱点を補うために利用することができます。

【社会】

これまでに学んできた知識や視点を使ったり、自分の持っている知識どうしの結びつきを再確認したりしていきます。また、提示された資料を読み取る、解答するために必要な情報を抽出し整理するということをしながら課題を解決していく力を養っていきます。そして、これまで学んできた見方や考え方を、提示された課題に応じて自ら選択し意図的に使っていき力も磨いていきます。演習で扱うテーマは、地理分野、歴史分野、政治分野と世界地理です。分野の中での結びつきや、分野を超えての結びつき、日本と世界との結びつきなど、さまざまな視点から日本の現状をとらえていきます。

■ 6年標準コース

扱う問題は、獲得すべき知識が明確なもので、演習を通して、持っている知識を使える知識にすることをねらいとしています。また、提示された資料の意味や着目するところ、読み取った情報と自分の持っている知識のつなげ方などを確認していきます。

■ 6年応用コース

扱う問題は、獲得すべき知識が明確なものと、解答に行きつくまでに多様な考え方ができるものとで構成されています。また、提示された情報の読み取り方や、読み取った情報と自分の持っている知識とのつなげ方などを確認し、課題に応じて見方や考え方を自ら選択していく力を磨いていきます。

■ 6年難問コース

扱う問題は、多くの情報から必要となるものを選択する、問題の意図に応じて記述するなど、難関校の多くで問われているものが中心です。演習を通して、高度な思考力、自分の持っている知識を深め、課題に応じて見方や考え方を自ら選択していく力を磨いていきます。

■ 共通問題

テキストは、問題—基本確認（基本知識の獲得状況をはかる確認問題）—重要事項の整理という構成です。各回の問題では、過去の入試問題において出題頻度が高い項目が取り上げられています。また、問題を解く際の視点を明らかにすることによって、獲得すべき知識と思考技法のつながりを確認できるようになっています。

【理科】

これまでに学んだ知識や考え方に目を向けて、「考え方の過程」を意識しながら自分自身で課題を解決する力を育てていきます。

- ① 問題で示された情報を整理したり、きまりの活用の幅を広げたりすることを通して、課題を解決するときに必要な頭の使い方が高まっていきます。
- ② 身につけた知識や考え方をを使うことを通して、分類や関係づけがなされた知識を取り出す力や、知識を組み合わせる力、記述力やグラフ・表から情報を読み取ったり、新しく情報をつくり出したりする力が高まっていきます。

■6年標準コース

各回ごとに必要な考え方やそのプロセス、また、他の単元との関連性が確認できます。さらに、問題に取り組むことで、ステージⅣまでに学んだ思考技法をつかみ直すとともに、知識を再構築していきます。

■6年応用コース

各回ごとに必要な考え方やそのプロセス、さらには他の単元との関連性をとらえていきます。難度がやや高めの問題に取り組むことで、思考技法や素材を組み合わせたり、変形させて使ったりしながら応用力が育っていきます。

■6年難問コース

各回ごとの単元で、難度が高めの問題に取り組みます。様々な視点で問題をとらえ、いろいろな思考技法を使って答えを導き出していくことで課題を解決する力が育っていきます。仲間との学びの中で、1つの問題に対する多様なとらえ方、知識どうしの結び付きの再構築が行われます。また、思考技法のつながりに目を向けるために、各回に他の単元の問題を入れた構成になっています。

■共通問題

入試までに獲得していく、重要な情報に触れることができる問題や内容が掲載されています。使う思考技法が比較的明確で単純な問題に取り組むことで、思考技法と素材のつながりを確認していくことができます。入試までに必要な内容を網羅的に掲載しているため、問題の分量が多くなっています。夏期講習終了後も課題や弱点を補うために利用することができます。

★その他

- ・夏期講習中はテストが4回行われます。
- ・国語・算数は、家での学びで使うことのできる教材がついています。
国語…「記述演習」「語句演習」「漢字練習」
算数…「計算と一行題」
- ・6標準・6応用テキストでは、クラスにとって最適な問題を選択して使用できるように、全体的に問題量が多めになっています。そのため、授業中には全ての問題を取り扱えない場合があります。そのため、問題量から考慮して、テキスト内容で、クラスで選択して扱う問題には☆や★のマークをつけてあります。
- ・6難問テキストには、その回のテーマとなる分野に特定せず、同じ思考技法を使う必要のある別分野の問題も一部掲載しています。その対象となる問題には★のマークがついています。このことによって、パターンや暗記に頼るのではなく、問題で求められている本質的な思考技法に目を向け、どんな問題に対しても柔軟に対応できるチカラをつくることができます。